



＝ いまの憲法が私たちの暮らしを護る ＝

新年あけましておめでとうございます

いやなことは

いやや言って言える世界にしよう



皆様はどんなお正月を迎えられたでしょうか。コロナが少し落ち着いているとはいえ、離れて暮らす家族とはオンラインでおめでどうと言葉を交わしたのでしょうか。

20年前（もうそんなになるか）初孫が生まれたとき赤ん坊に向かって「いやなことはいややっていいんだよ」と言ったのを思い出している。

どんな気持ちだったのか確かではないけれど自分の意思を持つんだよとか自由に生きていいんだよとか思ったのかもしれない。

いま考えてみると自由にものが言えない世の中にしてはならない、否応なく戦争などに駆り出されな

い世の中になくちやという思いが重なる。政治の世界を見回すと、聞く耳を持つと言って総理となつた岸田首相の初めての国会論争はなんだかおとなしそうに見えて敵基地攻撃なんて言葉がスラッとしてきたりしてあぶない危ない。

私のあの時の想いを少しでも良いほうに変えて行けたのだろうか。若い人に期待する前に自分に何ができたのか、お正月少しゆっくり考えてみたい。

今年四歳になった別の孫の絵を見ながら、困った子がいたら自分のほっぺをちぎって与える

アンパンマンのような政府を作らなければと思う。



今月の予定です

皆さん 気軽に参加ください



1月8日(土) 13:30 ~ 16:00

野田・九条の会 1月例会「今年の活動計画」

中央公民館 講座室

野田・九条の会

1月9日(日) 13:30 ~ 16:30

DAD 視聴と意見交換 テニアン島「玉砕の島を生きて」

南部梅郷公民館

南地域九条の会

1月11日(火) 16:00 ~ 17:00

九条通信配布・ボードでアピール

川間駅 北口

野田・九条の会



ちょっと硬派な

「おしゃべりカフェ」

気軽に暮らしと政治をおしゃべりして見ませんか

《PC、スマホでの申込み先》

n.katagiri88@gmail.com(片朝)

野田・九条の会

2月6日(日) 13:30 ~ 16:30

DAD 視聴と意見交換

なぜ一代年寄りになれなかったのか

「横綱白鷲と日本社会」

南部梅郷公民館

南地域九条の会

シリーズ 私たちの憲法



自民党改憲草案

九条改憲をも呑みこむ

緊急事態条項

日本国憲法には、先の大戦の反省から国家による濫用の危険性のある国家緊急権（緊急事態条項）は定められていません。1946年の新憲法制定帝国議会において明確にその必要性のないことを政府として答弁しています。

ではなぜ自民党は改憲したいと草案に盛り込んでいるのでしょうか。広報などでは今後予想される大震災に備えるとしか説明していませんが本当の目的は草案99条の「内閣は法律と同一の効力を有する政令を制定することができる」にあります。国会の議決を経ず内閣のみで何でも決め、指示・実行させる、つまり独裁政治が可能ということ。

これからも本当の目的を国民に示さず進めようとするのでしょうか。

シリーズでその危険性をとりあげていきます。



”改憲は必要ない” コロナ禍克服に力を尽くすべき

□ 政府がいま行うべきこと

岸田首相は昨年10月新政権発足時の所信表明で安全保障戦略として「ミサイル防衛能力など防衛力の強化に果敢に取り組む」としたが、12月6日の演説では「いわゆる敵基地攻撃能力も含め、あらゆる選択肢を排除せず現実的に検討」していくと専守防衛否定にあからさまに踏み込んだ。戦後76年、いままで日本は他国を侵す国ではないことを憲法に定め、国際社会に認められてきた。そこにこの敵基地攻撃能力の保持計画に1年をかけ策定するとはあまりにも国民が求めるいま行うべきこととは大きく乖離するではないか。

ここでいう敵基地とは中国としか考えられず、その基地を攻撃することは無謀としか言えない。主権者である国民に納得する説明は到底不可能だ。

尖閣また中台関係また米中覇権争いでの紛争を危惧してのことであろうが、基となるのは別にあるのではない。一昨年9月、安倍首相が突然の退任時に言い出したこの敵基地攻撃能力は高市政調会長がさらに補強しようとしており、党内の一部強硬派の支持固めにあるのだろう。周辺諸国との関係、防衛費激増また行政に費やす時間どれをとっても無駄であり無理と言わざるを得ない。いま岸田政権にとって重要施策としてすべきことはコロナ禍で苦しむ人々に予算と行政資源を投入することであり第6波に備えることである。

□ 参院選で自公維 本気で改憲問うのか

昨年10月の衆院選で改憲発議を可能とする勢力が三分の二を超えたとの報道がなされている。自公の与党に維新、国民を加えその数としているが、改憲勢力と一括りにして論じるのは乱暴と思われる。

自民は'12年に改憲草案また'18年に草案を本とした改憲4項目をすでに提示しているが公明党は与党でありながら自民案にはいまのところあいまいな否定の立場をとり、維新は自民案に共鳴するも優先度は法律で成立させられる教育無償化を上げ憲法にたいする理解度が危ぶまれる。国民民主の玉木代表は'15年の安保法制を肯定的に捉え緊急事態条項も議論するとし、九条また民主主義の理解度のあやふやさに不安を覚える。

夏の参院選はすぐそこだ。岸田政権は本気で改憲に臨むのか、それによるよらないに関わらず自民の改憲案は国民には不急であり不要だ。あえて心構えすべきことは、自民が本丸として狙う緊急事態条項であり、しっかりと警戒しなければならない。



11/21 日の映画・講演のアンケートに寄せられた感想の一部です。

● 映画 **沖縄スパイ戦史**

● 講演 三上智恵 監督

主催 平和のための戦争展・のだ実行委員会

☞ 軍は住民を守らない、必要なら殺す。よく言われ言葉としては知っていました。身にしてみても感じました。学び続けないと流されてしまう。

☞ 軍と地元のリーダーとの関係は現在でも有事の際起こると思われる。

☞ 国家は国民をだまし、国民はだまされて協力し地獄を作る。反省するのであれば、権力にだまされる人間とならないよう自身を形作らねばならぬ。

☞ 重要土地規制法のことについて友人と話し合いたいです。

☞ 子どもたちにこんなことが2度とないように自衛隊の存在、基地問題を反対するだけでなく行動していかなければとつくづく感じた。世を変えるのは選挙しかない。

☞ 沖縄は日本の縮図のように考えさせられました。日米安保条約は永久に破棄出来ないのでしょうか？

☞ 戦争は嫌だ、させないと言っているだけではだめですね。関心をもって目を向けていかなければと痛感させられました。



三上智恵監督

送ったアンケートにお返事をいただきました。

一つ一つ、やってきたことが無駄ではなかったんだなあ、と手応えを感じます。勇気になります。世の中が悪くなっていくのをなんとか止めたいと動く決意のある人々は多分まだまだ数多くいらっしゃると思います。情報やキッカケが有れば。